



2023年12月号 (No.8)

多気町立図書館だより

TEL:0598-38-1133 (多気図書館)

TEL:0598-49-4500 (勢和図書館)

<https://www.town.taki.mie.jp/library/index.html>



～年末年始休館のお知らせ～

12月28日(木)～1月4日(木)

本の返却はブックポストへお願いします

寄宿学校に通うマルティンたち。他校生との対決。クリスマス劇の上演。そして素敵な大人との出会い。マルティンたちにぎやかなクリスマスがやってきます。



『飛ぶ教室』

多気図書館

12月のカレンダー

□: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30～					1	2
3	4	5	6	7	8 おはなし おもちゃ	9 おはなし ぼけっと
10	11	12	13	14	15 赤ちゃん おはなし 会	16
17 冬のお楽しみ	18	19	20	21	22	23 おはなし ぼけっと
24 31	25	26	27	28	29	30
				整理日		

勢和図書館

エール・ケストナー/著 (943ケ)

12月のカレンダー

□: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30～					1	2
3	4	5	6	7	8	9 おはなし 会 ・勢中Xmas コンサート
10 ほんとかフェ	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23 おはなし 会
ブック24 クラブ 31	25	26	27	28	29	30
				整理日		

ブックスタート(おひさま) 12/22(金) 10:00～

～イベント紹介～

・12/9(土)13:30～
勢和中学校クリスマスコンサート

・12/10(日)13:00～
ほんとかフェ&クリスマス歌のコンサート おはなし会も!

・12/24(日)13:30～
冬休みブッククラブ(※要予約! 詳細はチラシにて)

【早耳情報】

・1/21(日)10:00～
ドキュメンタリー映画「百姓の百の声」上映会
(詳細はチラシにて)

FB・Insta→「多気町立勢和図書館」

か「seiwallib」で検索



勢和:FB



勢和:IG

～イベント紹介～

・12/17(日)13:30～
冬のお楽しみ
with English!

詳細はチラシにて。
申し込みが必要です。

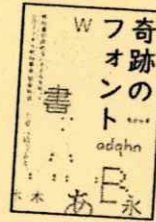
～コーナー紹介～

・師も走る十二月。

～忙しい年の瀬に、本でお助け!～

・クリスマスコーナー

12月のおすすめ本



『奇跡のフォント』 高田裕美:著 時事通信社 (007.6タ)

“UD デジタル教科書体” パソコン等で使う文字の一つです。2016年にリリースされましたが、そこにたどり着くまでには、果てしない道のりがありました。より多くの人に読みやすく、間違えにくく、伝わりやすい書体を作る! そんな書体デザイナーの熱い思いが、このフォントを作り上げました!!

『めざせ! ムシヨラン三ツ星』 黒柳桂子:著 朝日新聞出版 (326.5ク)

刑務所の食事はクサイ!? ますい!? そんなことはありません! 栄養士さんが受刑者の健康を考え、メニューを考えてくれているのです。しかし作るのは料理をしたことがない男子受刑者たち……。今日もいろんなハプニングが起こります!



『自分のために料理を作る』 山口祐加:著 晶文社 (596ヤ)



自炊は正義! という呪縛や、心が疲れ果て料理をすることが億劫に……。そんな経験はありませんか? 食べることは生きること。自分の心と身体が喜び、幸せになれるような方法で料理と向き合うことを考えます。生活のリズムやペースは、人それぞれ。他人と比べることなく、自分が心地よいと思える毎日を手に入れましょう!

『宮沢賢治ほんたうのさいはひは一体なんだらう』 平凡社 (910.2ミ)

スライドトークショー「宮沢賢治の夜」で紹介いただいた、別冊太陽の宮沢賢治特集本です。写真撮影は中里和人さん!! 当時の写真、生原稿、手稿などがふんだんに掲載されており、宮沢賢治の魅力にせまる一冊です。



『サウンド・ポスト』 岩城けい:著 筑摩書房 (913.6イ)

言葉が通じなくとも、父と娘の絆は、なによりも深く、強い。早くに妻を亡くし、幼い娘との生活。何もかもが戸惑いの連続。しかし、娘の成長とともに父も成長していく。ヴァイオリンを通して刻む、父と娘の温かな時間。



『実母と義母』 村井理子:著 集英社 (916ム)

家族間に起こる様々な問題と避けて通ることは難しいものです。愛情を注ぎ、自分らしく自由に生きることを許してくれたが、若くして癌で亡くなった実母への思いと長年、厳しい仕打ちを強いる認知症進行中の義母への思い。二人の母への思いに揺れる作者は、大切な人であっても誰かのために自分を削ることはやめようとする。

